

日本大学理工学部  
海洋建築工学科 堀田健治

私が所属している学科は「海洋建築工学科」というユニークな名称がつけられているが、これは土木、建築、造船、海洋工学の知識を修得し、あわせてその境界領域に新しい学問大系の確立をめざして設置されたものである。したがってその範囲は広く、海域と陸域の総合利用と保全をはかるための周辺工学ともいうべきもので、海洋構造物、海上都市、水産・エネルギー施設等のソフトとハードの面に研究が注がれている。最近私の研究室のワークの1つに産業連関分析を用いて沖合人工島の建設

が地元社会におよぼす、経済波及効果の分析がある。現在、官民それぞれの立場で沖合人工島の調査研究がなされているが、よりよい実現をめざすためには建設されることによる地域経済、社会の問題は無視しえなく、むしろ予測された効果を計画にフィードバックさせながらより計画の質を高めてゆくべきであるとの認識から研究が始まったものである。分析は建設地域によるちがいが、材料、工法（埋立式、浮体式）等によるちがいを定量的に推定することが目的の1つであるが、これまでに興味深い結果も得られたため別の機会に発表し、ご意見やご批評をいただきたいと思っています。

## 会合記録

( ) 内は人数

三学会連合大会打合せ（日本OR学会・日本経営工学会・日本品質管理学会） 12月5日（月）（11）  
庶務幹事会 12月5日（月）（8）

モニター委員会 12月7日（水）（1）  
編集委員会（OR誌） 12月8日（木）（7）  
OR事典編集委員会 12月10日（土）（6）  
国際委員会 12月12日（月）（5）  
研究普及委員会 12月14日（水）（8）  
編集委員会（論文誌） 12月19日（月）（3）  
IAOR委員会 12月20日（火）（5）

**編集後記**▶高度情報社会、ニューメディア、OA、ホームオートメーション、昨年まではまだ何となく地に着かない浮いた感じの言葉が、今年は実現性のありそうな身近なものに聞こえてきます。これはマスコミのせいだけではないようです。ビジネスに、そして生活場面に、まだ小さいながらも確実に新しい動きとして見えるからです。しかもそれらの動きは、かつての日本を支えてきたいわゆる基幹部分（産業）ではなく、より人々（生活者）の目にふれる身近な場面で起きているのが特徴なのです。これからのORの活用と新たな展開も、今までにすでに定着した部分に加えて、これら新たな分野での期待が大きいものと思われまます▶これだけ社会が変化すれば

OR教育も実践も、その考え方、方法もおおのずから従来とは違ってきて当然でしょう。もちろん特に教育には基礎的な部分も必要なわけですから、時代の流れにすべてが振り回されるのも困ります▶魅力あるOR誌づくりというのが当編集委員会の使命ですので、新・旧、基礎・応用と記事の使い分けの工夫が必要となってきます。毎月の特集も、ORの手法や利用分野で組む場合と、新年号のようにORの現状把握、あるいはあり方に関するようなテーマで組む場合の両方で編集を進めていきたいと考えています。ちなみに3月号は「トラフィックのOR」、4月号は「大学のOR教育」です。（J）

## オペレーションズ・リサーチ

昭和59年2月号 第29巻（新シリーズ第9巻）2号 通巻278号  
代表者 横山勝義  
発行所 社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会  
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
（電話 03-815-3351~2）〒113  
編集人 牧野都治  
発売所 株式会社日科技連出版社  
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円（郵送料含）年間予約購読料 9800円（郵送料含）

本誌への広告お申し込みは明報社（571-2548）、日経弘報社（563-2241）へ